

『この臨床栄養の領域、 薬剤師さんにもっとがんばって欲しい!』

2025 年が始まりました。アメリカのトランプ氏が大統領として再登場し、世界中、どうなることやら、という感じ。本当、どうなるのでしょうか。いろいろ危ないことが起こりそう！トランプ氏が世界中で一番偉いのですか？強いのですか？まあ、USA の大統領として選ばれたんですからね。

年末年始は 9 連休でしたが、あっという間に過ぎてしまった、そんな感じ。元旦は、まずは近所の神社へ行き、破魔矢を購入。しかし、私が大嫌いな蛇の絵馬ばかり。売っている巫女さんに「蛇嫌いなんで、蛇の絵馬がついていない破魔矢はないの？」と聞くと、馬鹿にしたような表情と声で「そんなありません」とのこと。横にあった安っぽい破魔矢には絵馬がついていない。それにしようかと一瞬思ったのですが、あまりに安っぽい。仕方なく絵馬付きの 3500 円の破魔矢を買いました。「来年の絵馬は蛇はやめてくださいよ」と言ったら、巫女さんに「そんな当たり前です」と馬鹿にされてしまいました。正月早々、馬鹿な事をしてしまいました。その後、西宮の海岸まで歩き、ついでに西宮神社、広田神社、甕岩神社と西宮市内の有名神社に歩いて行きました。参拝者が多くて、長い行列。参拝するには長時間、待たなくてはならなかったため、行っただけ。参拝せず、お賽銭もなし、でした。元日の午前中に歩いた歩数は 25,000 歩。これでお正月は終わり。あとは、大学へ出てきていろいろ仕事をして過ごしました。

最初の仕事は 1 月 6 日、臨床医学Ⅱの後期試験。受験した学生は 3 人だけだったので、採点もあっという間に終わりました。もちろん、全員合格。1 月 10 日は神戸学院大学薬学部の辻本先生に依頼されて、臨床代謝栄養学での講義。「臨床栄養の概要—薬剤師への期待」として 90 分、しゃべりました。選択科目なので聴講者は 30 人ほどでした。なんといっても、神戸学院大学のキャンパスがすばらしい。神戸港が見える、海辺にあります。大学らしい、こんな大学で学生生活を送れたら幸せだろうな、勉強もはかどるだろうな、と思いました。

1 月 15 日は、看護学部の「栄養学」と栄養学部の「臨床栄養学Ⅲ」の試験。結果？言えません。私は試験監督中、何をしていたか？不正をしないかを見張るとの名目で歩き回りながら、試験の回答を書いている学生達の鉛筆の持ち方をチェックしていました。学生達の鉛筆の持ち方は、ほぼ全員が「T 型」でした。納得！前回のこの記事で報告した調査結果は正しかった！

1 月 18 日と 19 日は大学共通テストの試験監督。とは言っても、待機という立場でした。2 日間、午前 8 時半から 18 時半まで、遅刻者がいたりした時のために待機。しかし、この共通テスト、必要なの？と考えていました。試験監督は大変な仕事です。どういう説明をするかがすべてマニュアル化されていて、受験生への説明はシナリオ通りにしないといけません。余分なことは



↑ 2025 年のゼン先生の栄養管理講座の 1 枚目の写真。めでたい写真を、と考えたのですが、広田神社へ行く道の提灯です。なんとなくめでたいような感じがしませんか。着物姿の女性もいるので。



↑ 2025 年 1 月 1 日の西宮浜です。いい天気でした。穏やかな 2025 年になりますように、と願いましたが、無理かなあ。



↑ 有名な西宮神社です。参拝者がたくさん、出店もたくさん、でした。私はひたすら歩き回っただけでした。人混みをかき分け、かきわけ、でした。私は参拝せず、お賽銭も出さず、でした。



↑ ここも有名な広田神社です。阪神タイガースが必勝祈願に行くところです。ものすごく長い列でした。私は参拝せず、素通り。トイレだけ使わせていただきました。



↑ ここも結構有名な甕岩神社です。越木岩神社とも書かれています。北の戎さんです。ここは神社の鳥居の中にも入れませんでした。この神社は、大相撲の大阪場所で二子山部屋の宿舎になります。私は、一応、後援会の一般会員です。

絶対に言うてはいけません。一言一句、シナリオ通りに言わなくてはなりません。シナリオ通りにしゃべっているかを3人の教官でチェックするのです。シナリオの漢字にはフリガナがついています。「表」は「おもて」です。「ひょう」と呼んではいけません。試験監督をして



いいのは大学の教官だけ。靴は歩く音がしないような靴底のものを履く。居眠りしてはいけません(当然です)。すべての教室の時計は秒単位で正確、かつ一致していなければなりません。質問がある人は「手を挙げてください」ではなく「手を高く挙げてください」です。本当、大変。2日間、「待機役」でよかった。監督をさせられたら、きっと、私らしい「失態」をして、「監督者が余計なことを言って気が散った」とか、「共通テストの会場、千里金蘭大学では、監督者が居眠りしていたことを受験生が指摘して問題になりました」となったでしょうから。

22日は関西 PEG・栄養とリハビリ研究会の世話人会。大阪駅のグランフロント大阪の会議室が会場。どこへ行ったらいいのか、わからない。大阪駅はものすごい都会になっていて、本当、完全にお上りさん。世話人会は和気藹々。議事はあっという間に終わり、あとは、一人ひとりに近況報告をしていただきました。いろんな情報が得られてよかったです。病院経営が大変だと何人もの院長が言っていました。6月19日に研究会を開催します。第28回です。もう28回か。私も代表世話人になってもうすぐ20年です。そろそろ交代の時期です。



↑ 神戸学院大学のキャンパスです。素敵でしょう？右下は、どこの建物かはわかりませんが、向こうに見えるのは神戸の港です。すごい！

1月26日は神戸学院大学薬学部の「Home Infusion 研究会」に、パネルディスカッションの「パネラー」として参加しました。名古屋の杉本先生の講演、スギ薬局グループの薬剤師、宇野達也さんの講演を聞いてからパネルディスカッション。テーマは、在宅輸液療法において薬剤師の果たす役割。杉本先生、宇野さん、天理よろづ相談所病院看護師の角田さんとの4人で。神戸学院大学薬学部の辻本先生が座長で、井上善文氏は勝手な意見を言っていました、ということでしょうか。オンラインを含めると約160人が参加したとのこと。実は、この研究会は午後1時半から。いったん大学へ来てから研究会の神戸まで移動するのは時間がかかりすぎてもったいない。そこで、午前9時には家を出て神戸へ行き、神戸観光をしました。メリケンパークへ行き、神戸ポートタワーに上り、神戸港クルーズ。神戸東遊園地へも行き、昼間の「神戸ルミナリエ」会場をチェック。神戸港クルーズは初めてでした。研究会終了後はメリケンパークでの「神戸ルミナリエ」へ。今年は有料で、当日券は1500円。大勢の人出で、入場まで30分以上並んで待ったのですが、ルミナリエの電飾を見ながら歩いて、5分ほどで終わりました。きれいでしたよ。でも、3か所に分かれての開催だったので、昔のルミナリエに比べると小規模になったなあ、と思いました。それに、1500円払って会場内に入らなくても、外から十分楽しめたのに、なんて考えたりしました。しかし、運営が大変らしいです。阪神淡路大震災から30年。鎮魂の意味も含めた神戸ルミナリエです。



↑ 窓からの景色。神戸ポートタワー、メリケンパークオリエンタルホテル、ホテルオークラ、新しくできたバスケットボールのGLION ARENA KOBE・TOTTEI(今年の4月4日開業)も見えます。



↑ 大学を一歩出ると、この景色です。天気の良い日はここを散歩すれば快適ですよ。勉強もやる気になる！！



↑ 1月10日、神戸のポートアイランドにある神戸学院大学薬学部で講義。本当に気楽に講義したのですが、熱心に聞いてくれました。かなりのびのびとしゃべってしまったようでした。

ゼン先生：もう1月も終わります。

小越先生：本当だ。例年のように、1月は行く、2月は逃げる、と言いたいんだろう？

ゼン先生：言いません。マンネリ化していますから。3月は去る、ですけど。

小越先生：言っているじゃないか。ところで、今年は、年の初めに何か決心でもしたのか？

ゼン先生：毎年、同じような感じですよ。70歳を過ぎたので、今年は、とにかく健康第一ですね。

小越先生：確かに。

ゼン先生：この1月は、大阪、兵庫から外へ出ることはありませんでした。遠くから講演なんかに呼ばれる機会も減りました。

小越先生：まあ、そうだろうよ。世の中の流れから取り残されている、70歳になったおじいちゃんを、講演に呼んでくれる人はもういないよ。

ゼン先生：確かに。それも仕方ないことです。

小越先生：近場で活動しなさいよ。

ゼン先生：はい。そのつもりです。そうそう、2月にはJSPENの教育講演でちょっとしゃべることになっているんです。

小越先生：え？JSPENで君が講演する？

ゼン先生：そういうことになりました。

小越先生：学会費を払わなくて退会させられた君が教育講演でしゃべる？本当か？

ゼン先生：先生もそう思われるでしょう？

小越先生：当たり前だ。

ゼン先生：だから、比企会長に確認したんですよ。本当に私が講演してもいいんですか？と。

小越先生：そしたら？

ゼン先生：是非、講演して欲しいと言われまして。

小越先生：そうか。会長が講演してもいいと言っているんだったらいいんじゃないか？

ゼン先生：でも、講演時間は30分なんですよ。

小越先生：30分？短いけど、それなりにインパクトのある内容にすればいいじゃないか。

ゼン先生：まあ、そうなんですけど。

小越先生：講演料とか、交通費なんかは出るのか？会員じゃないんだから。

ゼン先生：そう言われましたけど、お断りしました。ご迷惑をおかけすることになりますので。

小越先生：お、しおらしいことを言うじゃないか。

ゼン先生：とにかく、JSPENの先輩達にお世話になって今のよう活動ができるようになったので、お礼奉公のつもりなんですよ。

小越先生：お礼奉公か。その気持ちは大事だ。殊勝な考え方だ。しっかりやりなさい。



↑1月26日の神戸観光です。神戸ポートタワーは、入場料は1200円ですが、65歳以上の方は半額の600円。歳とって得した気分。そうそう、階段が多いですが大丈夫ですか？と言われました。誰に向かって言ってるんや！中学校の時の通学は、毎日往復で10kmも歩いて鍛えた、元旦も25,000歩も歩いたんやで、とは言いませんでしたけどね。



↑メリケンパークの「神戸ルミナリエ」会場です。これが夜になると電飾で豪華なものになるのです。昼間の状態も知りたいでしょう？



↑左は「BE KOBE」ですが、この写真を撮るのは大変なんです。みなさん、並んでこの前で写真を撮りますので、タイミング良く、写真を撮られる人達の入れ替わりの瞬間でした。右はメリケンパークオリエンタルホテルと遊覧船です。「BE KOBE」とは、「神戸はもっと神戸であれ」「神戸の魅力は人である」という思いを集約した「シビックプライド・メッセージ」だとのこと。阪神・淡路大震災から20年をきっかけに生まれたのだそうです。



↑神戸港クルーズが出航してからの景色です。やっぱり、神戸ポートタワーとメリケンパークオリエンタルホテルが、ここでの景色の代表的イメージですね。出港時は青空が見えるいい天気だったのです。



↑神戸港クルーズです。海からの景色もすばらしい。クルーズは1時間ほどで、港に戻る時に撮影したのですが、曇り空に変わって小雨も降っていたのが残念でした。左の写真は船の前の席なんですが、ずっとここを占拠しているカップルがいて、座れませんでした。仕方ないので、カップルとカップルの間の隙間から写真を撮りました。神戸ポートタワー、メリケンパークオリエンタルホテルが見えるポジションでした。

ゼン先生：はい。がんばります。

小越先生：それがいい、それがいい。そういうことでも、忙しいんだろう？

ゼン先生：忙しい？まあ、講演準備には時間がとれないほど忙しいです。大学の講義は終わりましたし、試験も終わりましたが、いろいろ、することはたくさんありますから。

小越先生：何に忙しくしているんだ？

ゼン先生：論文執筆ですね。機関誌の投稿論文が少ないので、私がいろいろがんばっています。そうでもしないと、機関紙を出版できませんから。

小越先生：そうなのか。投稿論文が少ないのか。

ゼン先生：そうなんです。無茶苦茶少ないんです。リーダーズでも発表演題はそれなりにあるんですが、論文を書きませんね。症例報告をしっかり書いて欲しいんですけど。

小越先生：全国的な流れなのか？

ゼン先生：そのようです。困ったことです。栄養の領域だけなんでしょうか、わかりませんが。

小越先生：医師がもっと論文を書いてくれないと、なあ。看護師、管理栄養士、薬剤師、どの職種も書かないんじゃないか？

ゼン先生：そうです。残念なことに、医師は、栄養の論文なんて、医師が書くものじゃない、なんて思っているんじゃないでしょうか。

小越先生：偉い医師ばかりなんだな。

ゼン先生：先生、それは皮肉ですよ。

小越先生：皮肉？そんなことはないよ。正直な気持ちだよ。

ゼン先生：そういうことにしておきましょう。岡田正先生が、よく、「論文のネタは引き出しを開けたらいくらでもある。要は、書く気があるかどうかだ。」と言っておられました。

小越先生：なるほど、それは正しいとオレも思う。だって、日々、臨床の場で働いていて、患者さんに接していたら、ネタはいくらでもあるもんだ。そういう目で臨床をやっているか、そこが大事だよ。

ゼン先生：そうですね。

小越先生：ところで、また、NST活動なんかに関するアンケート調査をやっているんだって？

ゼン先生：はい。やはり現状を把握することが、次のステップへ進む根拠となりますから。

小越先生：そうだな。胃瘻に関するアンケートは、もう整理したのか？

ゼン先生：しました。千里金蘭大学の学生の卒業研究としてやりましたので、学内で発表して、私が論文にしました。もうすぐ掲載されます。



↑「神戸港」と書かれた灯台です。港の名称が書かれた灯台があるのは、日本中でここだけだそうです。クルーズ船はこれです。ボーボー神戸です。神戸港クルーズに乗る予定ではなかったのですが、中突場を歩いていたら11時出航だとのことで、係の人に「乗れる？」と聞いたら、是非、と言われたので乗りました。1800円だったような気がします。神戸空港の沖まで行き、着陸する飛行機も見ました。



↑神戸港クルーズは約1時間。11時に出港したのでちょうど昼飯時。船内でピザセットを食べました。これで1500円。こんなものでしょうか？



↑阪神淡路大震災の時に倒れたモニュメントで、大震災が起こった時の時刻で止まった時計です。右は「希望の灯り」です。

小越先生：そうか。アンケート調査って、結果が出たらできるだけ早く公表しなくては、な。

ゼン先生：今回の調査は医療従事者以外の方の胃瘻に対する考え方や理解度も調査できました。1000人以上のデータが集まったんです。これは非常に貴重なデータです。

小越先生：へええ、医療従事者以外が1000人以上か。それはすごいなあ。本当に貴重なデータだ。

ゼン先生：本当にすごいデータです。医療従事者以外の方達が胃瘻にどんな考え方をしているのか、どう理解しているのかを推察することができるデータです。今までの調査は医療従事者を対象としたものばかりですから。

小越先生：やっぱり、理解度は低いんだろう？

ゼン先生：最終的には論文を読んでいただけたらいいんですが、胃瘻の認知度はまあまあ高い、しかし理解度はそれほどは高くない、ということでしょうか。半分以上の方は、胃瘻を作ると食べられなくなる、胃瘻は最終手段だ、と思っているようです。

小越先生：なるほど、という感じだ。しかし、データとして出

したのは初めてなんだろう？

ゼン先生：そうなんです。初めてです。だからちゃんと論文にしておかないとダメですよ。

小越先生：その通りだ。2年前、3年前のアンケート調査の結果って、役に立たなくなるからな。

ゼン先生：そう思って、できるだけ早く論文にして公表するようにしています。2024年4月に実施した胃瘻に関するアンケート結果は、9月に出版した、リーダーズの機関誌 Medical Nutritionist of PEN Leaders に掲載されています。

小越先生：へえええ、早いな。

ゼン先生：当然です。

小越先生：当然か。まあ、そうだな。4月に実施したアンケート調査の結果が、9月には論文として発表されているのか。確かに、そのくらいのスピード感でやっていかないと、アンケート調査の意義が薄れるな。

ゼン先生：そう思ってやっています。そうそう、1月に関西 PEG・栄養とリハビリ研究会の世話人会を開催したんですが、その時に、この論文を印刷して、参加してくれた世話人の方達に渡しました。

小越先生：なるほど。それでこそアンケート結果が活きてくるというものだ。ところで今回のアンケート調査は、もう集計に入っているのか？

ゼン先生：入力済みですが、集計はまだです。いろいろすることがありますので。

小越先生：どのくらいの数が集まったんだ？

ゼン先生：1回目のお願いで少なかったんですが、追加のお願いをしたら、最終的に500人を超えるデータが集まりました。それなりに有意義な調査になると思います。

小越先生：すごいな。本当、君の調査に協力してくれる人が多い、それは、ありがたいことだな。

ゼン先生：そう思います。感謝しています。だから、回答してくださった方、一人ひとりにお礼メールを送っています。

小越先生：500人ほどに、一人ひとり？

ゼン先生：もちろんです。それは礼儀でしょう？

小越先生：礼儀と言えば礼儀だけど、なかなか、そこまではできないぞ。

ゼン先生：いや、これは、絶対にしなければならないと思って、ずっとやってきています。それと、アンケートを集計して論文を書くこと。これも、絶対にしなければならない、協力してくださった方達への感謝の気持ちの表現です。

小越先生：いい加減な性格だと思っているんだけど、そこだけはしっかりしているな。褒めて遣わす。



↑夜の神戸ポートタワーと、メリケンパークの神戸ルミナリエです。Kobe, 神戸, です。

ゼン先生：ありがとうございます。まあ、本来のやるべきことだと思います。

小越先生：今回の調査で、集計はまだだと言っているけど、今回のネタとして取り上げたいような調査結果はないのか？

ゼン先生：どうでしょうか。あまり取り上げたくないというか、とりあげると不愉快に思われる方がいるかもしれないんですが。

小越先生：いいじゃないか。そういうことを気にせず言い放題なのが君のスタイルなんだから。

ゼン先生：言い放題は言い過ぎですよ、先生。

小越先生：ちょっと言い過ぎか？まあ、許せよ。ということで、そういうネタを一つくらい取り上げようや。

ゼン先生：今まであまり取り上げなかったネタなんです。

小越先生：なんだ？

ゼン先生：今回の調査で気になったのは、NST 活動の中での薬剤師の役割というか、活動状況です。

小越先生：薬剤師はがんばっていないということか？

ゼン先生：まあ、そうですね。そういう質問をしたところ、集計



↑神戸ルミナリエです。あまりいい写真が撮れてなくてすみません。

はしていないのですが、入力している最中の印象としては、薬剤師はNST活動にあまり協力してくれない、仕方なく、という感じだ、という回答が結構多かったんですよ。

小越先生：そうなのか。

ゼン先生：そう言わざるをえないと思います。

小越先生：なぜなんだろう。かつて、静脈栄養の方法の開発の黎明期には、薬剤師が中心的に活動していたんだぞ。

ゼン先生：そうです。大阪大学の笠原先生、北里大学の島田先生、それから、日本人向けの高カロリー輸液用総合ビタミン剤を開発した大阪大学の紀氏先生。大事な仕事をされた薬剤師さんはたくさんいました。

小越先生：本当にそう。あの薬剤師さん達がいなければ、今の静脈栄養の形にはならなかったはずだよ。

ゼン先生：そう思います。静脈栄養剤って、薬剤師ですからね。薬剤師さんが一番詳しいはずですよ。

小越先生：もちろんだよ。しかし、臨床栄養の領域ではあまり薬剤師はがんばっていないのか？

ゼン先生：もちろん、がんばっている薬剤師さんもいるはずですが、なんか、そういう傾向が出て来ているようです。

小越先生：本当か？いい加減なことを言うと、薬剤師たちに叱られるぞ。

ゼン先生：いい加減ではないと思います。薬剤師に、臨床栄養に興味がありますか？がんばっていますか？と直接聞いたわけではありませんが、NST活動をしている人たちの印象としては、否定できないと思います。

小越先生：そうか、そういうことなら、いい加減ではないだろう。しかし、やっぱり、なぜなのか知りたい。

ゼン先生：一つは、静脈栄養剤がキット化され過ぎたことだと思います。薬剤師が処方をチェックしなくても、それなりの静脈栄養は実施できるようになっていますから。

小越先生：いわゆる、全部入り TPN キット製剤が主流だからな。

ゼン先生：そうです。ビタミンを入れなさいよ、微量元素を入れなさいよ、そういうことを言わなくてもいい製剤を使っている施設が多いので。

小越先生：しかし、それを適正に使っているとは言えない、それが君の主張だろう？

ゼン先生：そうなんです。日本全体として、静脈栄養なんてこれくらいで十分だぞ、細かく考えなくてもいいぞ、問題が起らなければそれでいいんだ、という雰囲気になってしまっています。

小越先生：そうだよな。



↑ 今回の写真は西宮、神戸という、地元の写真ばかりになりましたので、ここに「日本本土四極踏破証明書」を出します。本土の東西南北です。本土という表現はいまいちかと思いますが、北海道、本州、四国、九州という意味です。宗谷岬（北）、納沙布岬（東）、佐多岬（南）、神崎鼻（西：佐世保にある）の四極です。それぞれの市や町が証明書を発行してくれるのを知って、ネットやメールで依頼したのです。証拠写真も送って、です。1月25日に4枚が揃いました。4枚が揃うと、こういう証明書になるのです。宗谷岬、納沙布岬、佐多岬は有名ですが、神崎鼻はあまり知られていないと思います。私は、長崎市から平戸市ヘレンタカ一で行く途中に見つけて行ったのです。おかげで、四極を踏破できました。偶然でした。この4枚の裏を合わせると、こういう風に四極全体を示す地図になるようになっています。

ゼン先生：でも、いつも言いますが、ほとんどの TPN 処方是不十分だと思っています。その患者さんに最もよい処方、と考えていないのですから。

小越先生：ベストでなくてもいい、問題が起こらなければいい、そういうことか。

ゼン先生：はっきり言うと、問題が起こっていても気づかない、あからさまにならなければいい、なんですよ。そこまでダメになっていると私は思っています。

小越先生：本気での静脈栄養を実施するには、やはり、薬剤師がきちんと処方をチェックする必要があると言いたいんだな。

ゼン先生：そうです。しかし、きちんと処方をチェックできる薬剤師がどれだけ存在しているのか、そういう疑問もあります。

小越先生：へええ、そこまで言うのか？

ゼン先生：実際問題として、そこまで言える、言ってもいいとは思っています。

小越先生：また過激な発言をしているぞ。

ゼン先生：過激ではありません。文句がある薬剤師がいたら私に言ってきてください、とまで思っていますから。

小越先生：この発言は取り消したほうがいいんじゃないか？

ゼン先生：いいえ。取り消しません。これをきっかけに、反発して、薬剤師にはがんばって欲しいので。

小越先生：そうか。どうなっても知らないぞ。

ゼン先生：私は70歳です。もうリタイア寸前なので、どうなってもいいんです。

小越先生：開き直ったな。

ゼン先生：すみません。一番言いたいのは、静脈栄養剤や関連薬剤は、薬剤なんですよ。経腸栄養剤だって、医薬品のもが多く使われています。なのに、薬剤師がその内容や使い方に詳しくないって、おかしいでしょう。

小越先生：確かに。

ゼン先生：神戸で開催された研究会で、とにかく、もっと臨床栄養について勉強して欲しいと、薬剤師さん達に言いました。

小越先生：誰も怒っていなかったか？

ゼン先生：わかりませんが。私がずっと思っているのは、薬学部の教育の中で、臨床栄養学って選択科目なんだそうです。

小越先生：必修科目じゃないのか。

ゼン先生：まあ、詳しく知らないので、違うとって叱られるかもしれませんが。私、東京の星薬科大学で臨床栄養学を約10年、講義しました。確か、最初は必修だったんです。途中から選択科目になりました。

小越先生：へええ、そうなのか。

ゼン先生：大阪薬科大学でも臨床栄養学の講義をしましたが、途中から選択科目になりました。星薬科大学では、コロナの影響もありましたが、最終的に、2023年度の臨床栄養学の講義の受講者は一人だったという話をしたでしょう？

小越先生：そうだったな。その一人のために、90分講義を5回やったんだ。東京まで行ったんだ。

ゼン先生：講義の最後にその学生と二人で記念写真を撮りましたけど。笑い話にしています。

小越先生：薬学部って、今は6年制だよな。

ゼン先生：そうです。4年制から6年制になりました。

小越先生：それだったら、もっと臨床栄養学に力を入れてもいい



↑ 静脈栄養の開発に貢献した薬剤師を3人選べ、と言われたら、大阪大学の笠原伸元先生、紀氏汎恵先生、そして、北里大学の島田慈彦先生ですね。笠原先生は岡田正先生と共に世界で最初に TPN における亜鉛欠乏症を発見し、微量元素製剤を開発されました。紀氏先生は日本人向けの高カロリー輸液用総合ビタミン剤：ソービタを開発されました。島田先生は、JSPEN の会長をされた、ただ一人の薬剤師です。私は、笠原先生と島田先生にはかわいがっていただきました。

いんじゃないかなあ。

ゼン先生：余計なことを言うな。薬剤師はいろいろ勉強しなければならないことがあるんだ。臨床栄養学なんて、力を入れなくてもいいんだ、と言われるんじゃないでしょうか。

小越先生：ははは、そうかもしれないな。

ゼン先生：でも、何度も言いますが、静脈栄養剤、輸液製剤、すべて薬剤ですよ。エンシュアリキッド、ラコール、エネーボ、エレンタール、これらは医薬品の経腸栄養剤です。

小越先生：そうだな。それなのに、薬剤師が本質を理解して処方をチェックしてくれないということか。

ゼン先生：そもそも、静脈栄養や経腸栄養の意義を理解していないんじゃないでしょうか。静脈栄養や経腸栄養の必要性、意義、効果を実感していないんじゃないかと思えます。

小越先生：実感か。

ゼン先生：そうです。きちんと静脈栄養や経腸栄養を実施すると、患者さんが元気になる、それを実感していないんだと思います。もちろん、いろいろ忙しいんですけど。

小越先生：それもあるんじゃないか？病院薬剤師は足りないんだらう？

ゼン先生：それは非常に大事な話ですよ。病院薬剤師は不足していると聞いています。調剤薬局に就職する薬剤師のほうが



↑ 現在、リーダーズなどに参加してくれている、栄養管理に力が入っていると私が評価している、私の知り合いの薬剤師さん達。なぜ、私がおこに入れてもらっていないの？私だって栄養管理に力を入れてがんばっているのにここに出ていない、と思われる方がいたら、是非、連絡してください。もし、抜けていたら、それはすべて私の責任です。

多いんですね。

小越先生：そうらしい。まあいろいろ事情はあるんだろう。

ゼン先生：この間の研究会は、在宅輸液療法をもっとがんばろう、という内容でした。

小越先生：在宅輸液療法か。HPN も含めてだな。

ゼン先生：そうです。在宅でのカテコラミン投与、化学療法、それから、麻薬、などなどの話でした。

小越先生：確かに。在宅注射療法は大事な領域になっている。そういう患者さんが増えているからな。

ゼン先生：そうなんです。いろいろ大変だとは思いますが。私は、正直、在宅静脈栄養について以外は、知識も経験も足りないと思っています。かといって、主治医たる医師達が十分な管理能力を有しているかという点、ここにも問題があるようです。

小越先生：となると薬剤師にがんばってもらわないと困るな。

ゼン先生：そうです。調剤薬局の薬剤師にがんばってもらわないと、困るのは患者さんですから。

小越先生：臨床栄養に関する学会や研究会での薬剤師の活躍はどうなっている？

ゼン先生：わかりません。関西 PEG・栄養とリハビリ研究会は、参加者の職種もチェックしていますが、薬剤師の参加はほとんどありません。

小越先生：胃瘻・経腸栄養の領域には薬剤師が活躍する場が少ないのか？

ゼン先生：どうでしょう。リーダーズだって、がんばってくれている薬剤師は多くないです。

小越先生：そうか。確かに、まあ、経腸栄養も大事だけど、静脈栄養に関して議論する場は少なくなっていて、リーダーズは静脈栄養に関して議論が活発なんだけど、活動してくれてい



↑ 第17回 静脈経腸栄養管理指導者協議会学術集会は、神奈川県立こども医療センター外科の北河徳彦先生が当番会長です。3月8日と9日、横浜の「はまぎんホール」で開催されます。演題がたくさん集まりすぎて困りましたが、なんとか、しっかり議論ができる時間をとれるようなプログラムを作成できました。是非、参加してください。

る薬剤師は少ないのか？

ゼン先生：参加している薬剤師は積極的に発言してくれています。とりあえず、今、思い出す薬剤師さんの名前を挙げると、樋口、林、大里、島田、辻本、鈴木、石原、杉田、石光、大石、亀井、そして古くからの友達だから林くん、くらいでしょうか。

小越先生：へええ、結構いるじゃないか。

ゼン先生：もちろんです。

小越先生：とにかく、薬剤師にもっとがんばって欲しい、それが今回のメッセージなんだな。

ゼン先生：そうです。特に静脈栄養の領域は、薬剤師さんに主導権を握って欲しいと思っています。細かい処方内容を理解できている医師は非常に少ないんです。エルネオバNF1 バッグ、という指示しか出せない医師が多いので、レベルアップするためには薬剤師のサポートが必要なんです。

小越先生：これは重要なメッセージだな。

ゼン先生：本当に重要なメッセージです。このゼン先生の栄養管理講座の記事を読んで、私に文句を言ってくる薬剤師さんがたくさんいたら、うれしいです。

【今回のまとめ】

1. 2025年が始まりました。どんな年になるのでしょうか。不安だらけのように思うのですが。
2. この1月は神戸、神戸、神戸でした。神戸港クルーズ、メリケンパーク、神戸ポートタワー、神戸ルミナリエ。久しぶりに神戸観光をしました。
3. いろいろ、アンケート調査に協力していただきありがとうございます。アンケート調査の結果は、すべて論文として発表していますので、リーダーズの機関誌：Medical Nutritionist of PEN Leaders をチェックしてください。
4. やっぱり、薬剤師さんにもっと臨床栄養の領域でがんばってもらわないと、きちんとした栄養管理はできないと思っています。特に静脈栄養の領域は、薬剤師さんの力が絶対に必要です。
5. 厳しいことを言いましたが、日本の臨床栄養の領域にとって大事なことだと思っているからです。よろしく願います。
6. 3月8日、9日の第17回リーダーズは横浜で開催しますので、ぜひ、参加してください。